

「袴着福松の碑」について

整理番号	福岡〇六	題額	袴着福松之碑	題額揮毫	—	碑記撰文	石川広成	碑記揮毫	—
------	------	----	--------	------	---	------	------	------	---

鐫刻	—	撰文建碑年	一九〇一・明治三四	住所	直方市下境	場所	光福寺	備考	
----	---	-------	-----------	----	-------	----	-----	----	--

一. はじめに

本石碑は、直方の下境村出身で、日清戦争後の台湾の抗日運動鎮圧のために出征し、戦病死した袴着福松を悼んで立てられたものである。建碑者は、福松の父である袴着兵一。

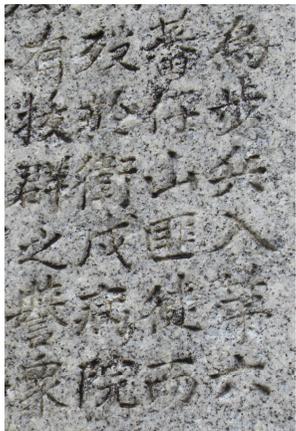
○写真1 石碑正面



○写真2 石碑背面



○写真3 「碑記」部分



二・翻刻並に訳注

■翻刻

(正面)

袴着福松之碑

(右側面)

袴着兵一建之

(背面)

君姓袴着名福松明治十年七月生父兵一母知以君其長男卅年為歩兵入第六師團卅二年一月進一等卒九月轉台灣守備隊卅三年一月討伐蕃仔山匪徒而還三月再從事于蕃仔山之示威行軍露宿風餐備嘗辛苦遂罹病歿於衛戍病院□六月二日也享年二十四君資性温厚事父母孝在營中而勤頗有拔群之譽衆皆囑望今也則亡哀哉祖父兵七翁齡八十尚壯健姉妹四人曰杉子竹子雀子繁子余與君有舊乃記其梗概并作銘曰

蕪荒之地 有寇有魂 維忠孝人 死而悲壯

明治三十四辛丑仲春

友人 石川廣成識之

\*異体字等

○松 松。 ○年 年。 ○嘗 嘗。 ○雀 鶴。

■訳注

●本文 (いわゆる旧字体とし、一行毎に改行した)

(正面)

◎題額

\*袴着福松之碑。

●校勘

\*題額の冒頭に紋章か落款らしきものがあるが、判読できなかった。

(右側面)  
袴着兵一建之。

(背面)

◎ 碑記

君姓袴着、名福松。

明治十年七月生。

父兵一、母知以。君其長男。

三十年、爲歩兵、入第六師團。

三十二年一月、進一等卒。

九月轉台灣守備隊。

三十三年一月、討伐蕃仔山匪徒而還。

三月、再從事于蕃仔山之示威行軍。

露宿風餐、備嘗辛苦、遂罹病、歿於衛戍病院。

六月二日也。享年二十四。

君資性温厚、事父母孝。

在營中而勤、頗有拔群之譽。

衆皆囑望。

今也則亡。哀哉。

祖父兵七翁、齡八十、尚壯健。

姉妹四人、曰、杉子、竹子、鶴子、繁子。

余與君有舊。

乃記其梗概并作銘、曰、

蕪<sup>1</sup>、荒之地、有寇有魂<sup>2</sup>。維忠孝人、死而悲壯。

明治三十四辛丑仲春、友人石川廣成識之。

● 校勘

\* 1 カビのため判読しがたい。いちおう「蕪」と取った。

\* 2 カビのため判読しがたい。いちおう「魂」と取った。

● 訓訳

◎ 題額

袴着福松の碑。

袴着兵一、之を建つ。

◎ 碑記

君姓は袴着、名は福松。

明治十年七月生る。

父は兵一、母は知以。君は其の長男なり。

三十年、歩兵となり、第六師團に入る。

三十二年一月、一等卒に進む。  
九月、台湾守備隊に轉ず。

三十三年一月、蕃仔山の匪徒を討伐して還る。

三月、再び蕃仔山の示威行軍に従事す。

露宿風餐に、備に辛苦を嘗め、遂に病に罹り、衛戍病院に歿す。

六月二日なり。享年二十四。

君、資性温厚、父母に事へて孝なり。

營中に在りて勤にして、頗る拔群の譽れ有り。

衆皆な囑望せり。

今や則ち亡し。哀しいかな。

祖父兵七翁、齡八十、尚ほ壯健なり。

姉妹四人、曰く、杉子、竹子、鶴子、繁子。

余は君と舊有り。

乃ち其の梗概を記し并せて銘を作る。

曰く、

蕪荒の地、寇有り魂有り。

維れ忠孝の人、死して悲壮なり。

明治三十四辛丑仲春、友人石川廣成之を識す。

#### ●注

○（明治）三十年 西曆一八九七年。福松二十一歳。

○第六師團 明治二十一（一八八八）年編成された師團で、熊本・大分・宮崎・鹿児島九州南部出身の兵隊で編成された。熊本を衛戍地（駐屯地）とした。

○三十二年 西曆一八九九年。福松二十三歳。

○台湾守備隊 台湾守備混成旅団。明治二十九（一八九六）年、台湾総督府管内における警備と匪徒鎮圧を目的として設置された。日露戦争以前は、兵員は内地からの交替派遣であった。「匪徒」とは徒党を組んで、強盗や暴動を起こす集団、賊。占領側が、反抗勢力をこう呼ぶ場合もある。

○三十三年 西曆一九〇〇年。福松二十四歳。

○蕃仔山匪徒 日清戦争の終結後、下関条約（一八九五年）によって、台湾は日本へ割譲された。しかしこれを承服しない清朝の役人や台湾の住民が反発し、しばしば抗日運動に発展した。これを鎮圧するのが台湾守備混成旅団の使命の一つであった。蕃仔山は台湾東部の山岳地帯で、抗日抵抗勢力の一つの拠点であった。

○還 生還するの意味と解した。

○露宿風餐 露営で寝泊まりし、風に吹かれて食事をする。野宿。行旅の苦しみを指す。

○備 みな、すべて。

○嘗 経験する。

○辛苦 苦しみ。

○衛戍病院 陸軍が長期に駐屯する場所に作られた病院。のちの陸軍病院。

○資性 生まれつきの性質。

○勤 力を尽くして働く。

- 頗 たいへん、よほど。
- 囑望 属望。望みをかける。前途や将来に大いに期待すること。
- 銘 韻文の一種。碑文は事柄を客観的に記述する散文の「碑記」と、そのことを情緒的に韻文でうたう「銘」からなる。銘を伴わない碑文もある。
- 蕪荒 雑草が生い茂る荒地。ここでは外地である台湾の山岳地帯を指す。
- 寇 盗賊。碑記の「匪徒」を指す。
- 魂 靈魂。袴着福松など其の地で戦病死した日本軍兵士の魂だと解した。
- 悲壮 悲しくも勇ましい。。
- 仲春 旧暦二月。

●口語訳（章立てと小見出しは訳者が便宜的につけた）

◎題額

袴着福松の碑。

袴着兵一が建てた。

◎碑記

【袴着福松君の名と生年】

君、姓は袴着、名は福松である。

明治十年七月の生まれである。

【両親】

父親は袴着兵一で、母は知以、君はその長男である。

【入営】

君は明治三十年、二十一歳で歩兵として徴に応じ、熊本を駐屯地とする第六師団に入営した。

同三十二年、二十三歳で一統卒に昇進した。

【台湾出征】

同年九月、台湾守備混成旅団に転任となり、台湾に渡った。

同三十三年一月、二十四歳のとき、台湾東部の山岳地帯にある蕃仔山に籠もっていた賊軍を討伐し、無事帰還した。

同年三月、再び蕃仔山に行き、示威行軍に従事した。

【罹患と戦病死】

しかし、野営や粗食が続く行軍に、苦しみを重ねて体調を崩し、とうとう病に罹り、陸軍の野戦病院にて死去した。

ときに六月二日。享年二十四歳であった。

【君の人となり】

君は、生まれつき温厚な人柄であり、父母によくお仕えして孝行を尽くしていた。軍営中にあつては勤勉に力を尽くし、衆を抜きん出る誉れがたいへんあつた。

【期待とその喪失】

だれもが、君の前途将来に大いに期待したものだつた。そうした君は、今や亡くなってしまった。ああ、なんと哀しいことではないか。

【君の残された家族】

君には、（父母の他）祖父の兵七翁が存命である。齢八十になるが、なお矍鑠として壮健である。

姉妹が四人おり、杉子、竹子、鶴子、繁子である。

【碑文撰文の経緯】

わたくし石川は、袴着君とは古なじみである。

そこでここにかれの生涯のあらましを記述し、あわせて墓碑銘を作る。

【銘文】

荒れ果てた台湾の山岳地帯には

仇をなす盗賊がおり、それらを討伐した日本軍兵士の霊魂がさまよう。

君は忠と孝とを兼ね備えた人だった、

その死は悲しいが、勇ましいものだった

【記事】

明治三十四辛丑の歳、仲春、友人であった石川廣成が文を撰した。

### 三．資料

### 四．主な参考資料

① 翻刻

・なし

② 論文など

・なし

以上

二〇二五年四月 薄井俊二訳す